



学校だより



かりやす

「か」しこく 「り」りしく 「や」さしく 「す」こやか

6月号
発行日：令和7年6月2日

本校HP



「努力の壺」…「す」こやか

校長 遠田 滋

俱利伽羅の山の木々も緑の濃さを増してきました。休み時間は、上級生も下級生も一緒に体育館でドッジビーヤやオニゴッコなどをして仲良く遊んでいます。保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。



さて、6月の全校集会で「努力のつぼ」という作文の一節を紹介しました。これは、『朝日 作文コンクール 子どもを変えた親の一言 作文25選』（明治図書）の中に載っている1年生が書いた作品です。（一部引用しています）

人が何か始めようとか、今までできなかったことをやろうと思った時、神様から努力のつぼをもらいます。そのつぼはいろんな大きさがあって、人によって、時には大きいのやら小さいのやらいろいろあります。そしてそのつぼは、その人の目には見えないです。でもその人がつぼの中に一生懸命「努力」を入れていくと、それが少しずつたまって、いつか「努力」があふれる時、つぼの大きさが分かるというのです。だから休まずにつぼの中に努力を入れていけば、いつか必ずできる時がくるのです。

私はこの話が大好きです。幼稚園の時、初めてお母さんから聞きました。その時は、横ばしごの練習をしている時でした。それから一輪車や、鉄棒の前回り、跳び箱、竹馬。何でも頑張ってやっている時、お母さんに頼んでこの話をしてもらいます。

くじけそうになった時でも、この話を聞いていると、心の中に大きなつぼが見えてくるような気がします。そして私の「努力」がもう少しであふれそうに見えるのです。だからまた頑張る気持ちになれます。（原文のひらがな表記は一部漢字に直しています）

このお話は、「あきらめずにチャレンジすること」や「たくましくやりぬく力」の大切さを教えてくれます。また、小さな努力を積み重ねれば、必ずできる日がやって来ることを示しています。自分の目標に向かって努力し、自分自身の壺をいっぱいにして、達成感や充実感を味わい、すこやかな刈安っ子に成長してくれることを願っています。保護者の皆様もお子様の壺がいっぱいになった時には一緒に喜んであげていただきたいと思います。



三校合同宿泊体験学習

器械運動交歓会

